



SPECIAL
FEATURE

特集

魅力創造

熊本保健科学大学 20 年…歴代学長座談会

CONTENTS

- 2~5 特集・歴代学長座談会
- 6~7 News & Topics
- 8~9 実習体験レポート、研究ノート
- 10 OB・OG就職活動ルポ
- 11 国際交流・クラブサークル紹介・Library
- 12 コラム・基本理念・教育目標・熊本大夢基金

選ばれる大学を目指して

特集

GINKYO SPECIAL FEATURE

魅力創造

熊本保健科学大学 20 年…歴代学長座談会

選ばれる大学を目指して

2003（平成 15）年に銀杏学園短期大学が4年制の熊本保健科学大学と
なつて 20 年がたちました。この間、本学は着実な歩みを見せていますが、
一方で 18 歳人口の減少により、厳しい大学間競争にさらされています。こ
うした中、本学は初代学長の岡嶋透氏（故人）から竹屋元裕・現学長まで、
4人の学長がかじ取りを担ってきました。当時の苦労話や本学の将来につい
て、3人の学長経験者に語っていただきました。

出席者（ ）内は在任期間：

第2代 小野 友道氏（2007 年4月～ 2015 年3月）

第3代 崎元 達郎氏（2015 年4月～ 2019 年3月）

第4代 竹屋 元裕氏（2019 年4月～）

司会 渡邊 元生＝「ぎんきょう」編集班

「広告塔」に徹した草創期

渡邊：小野先生は岡嶋先生が2003年
4月から2007年3月まで2期学長を務め
られた後、同年4月から4期8年にわたり
リーダーシップを執ってこられました。
いわば、草創期から充実期に移ろうかと
いう時期です。どのようなお考えで大学
運営にあたられたのでしょうか。

小野：僕は崎元先生が熊本大学の学長
をしておられました時に副学長を担当し
ていて、あの3年弱がここで学長職をし
て役に立ったな。熊大副学長の任
期が終わるころに、当時理事長だった船
津（昭信）さんから「お前（熊大を）いつ辞
めるのか」とお電話いただきました。「今
からやめて、こっちに来てくれないか」
「いや、それはできない」というやり取り
がありまして、予定通り任期まで務めて
本学にきたわけです。

大学運営に関しては、まだあまり大学
の名前が知れ渡っているとは言えなかつ
たので、僕は広告塔になろうと思いました。
おしゃべりですからね。いい意味で
の広告塔に。コマーシャルに出たことも
ありますよ。ある時、学会で行った先の
沖縄でテレビをつけたら、熊本保健科学
大学が出て、僕の顔が映ってびっくり
したな。恥かしく情けない話、そんな時
代でした。僕が来た頃は。

崎元：先生、情けなくないですよ。

小野：本学に来てフライパンに見え
たんですね。この丸い校舎が。「これは、
太陽光発電だろう」と思った。調べたら、
屋根を（太陽光パネルで）埋めたら大学
では（発電量）日本一になる。それで僕、
それこそ広告塔になって、九州経済産業
局とかなんとか押しかけて、補助金も
らってね。船津理事長も「OKとなるかな」



と言いながら許可してくれましてね。そ
の時は、事務も一生懸命やってくれまし
た。それで予定通りやれました。その後、
日本工業大学に抜かれましたが、「日本
一」の期間は何年がありましたよ。

運営について言えば、僕の時は恵まれ
たんですね。スーパー副学長が2人いた
んですよ。岡部（由紀子）先生には大学
の認証評価とかなんかを全部やってい
ただいて、教育を素晴らしく完熟させて
いただいたんです。それと、赤池（紀生）さ
んという、学者としてノーベル賞に近い
先生がいて、アカデミアの基礎を作っ
てくれた。この2人の副学長が素晴らしく
活躍して大学としての基盤をつくってく
れた。だから、僕は広告塔に徹したん
です。国際交流（タイ、韓国）も少しだけ始
めたけども、崎元先生でぐっと増えました
ね。

僕が学長で来た時には、学務というの
があんまりきちんとしていませんでした。

事務局に化血研の優秀な方々はいた
んですが、学校の経験者がおらず、それが
ちょっと苦労しましたね。当時は、化血研
の法人といった感じで、企業的な感覚で
運営されていました。2009年にこてこ
ての学校の先生である河瀬（晴夫）さん＝
現事務局長＝が来られて、それから学校
の体制が整ったんじゃないかな。

人間力養成へ教育改革

渡邊：小野先生の後を受けた崎元先生
は、2015年4月から2019年3月まで2期
4年間学長を務められました。2017年
から2021年までは理事長を務め、2年間
は学長と兼務されています。

崎元：船津理事長から「小野先生がしっ
かりいろんなことをやったから、何にもせ
んでもいいから来てくれないか」って言
われたんですよ。それがね、後から考え
てみると、何にもせんでよかったわけは



第2代 学長
小野 友道氏



第3代 学長
崎元 達郎氏



第4代 現学長
竹屋 元裕氏

なくて…。当時、「2018年問題」というのがあって、これは、それまで横ばいだった18歳人口が2018年から減少し始め、その後10年ほどで10万人くらい大学受験者が減るというものです。10万人といたら、入学者500人規模の大学が200校つぶれるという数字なんです。また、「2025年問題」というのもありました。2025年に戦後のベビーブーマーが75歳以上の後期高齢者になり、3人に1人が65歳以上の高齢者になるという問題です。本学のような医療系大学が、メディカルスタッフを育てるうえで、今後そういうことをしっかり認識していく必要があるといった状況だったんです。さらに、文部科学省的には「アクティブラーニング」というキーワードで語られる新学習指導要領が始まるという時期でもあったんですね。

「何もやらなくていい」と言われたんだけど、こりゃあちょっともう少し教育に力を入れないと持たないんじゃないかなと。そこで、「10年後、20年後も選ばれる大学であるための教育改革」と銘打って、教育改革推進会議という、学長が議長の会議を作って、カリキュラムの改革、教育方法の改革、それから入学選抜方法の改革、この3つの改革をやろうということで、いろんなことをやってきました。

渡邊：理事長時代も含め、多くのことをやられていますね。

崎元：この大学は国家試験に通ってなんぼという側面があるので、知識、技術、学力は大事なんですけど、それに加えて人間力というか、社会力、臨床力、そういう力を持った学生を育てないといけないということで、カリキュラム以外のと

ころで学ぶことにも力を入れるというような教育を呼びかけました。例えば、(米国・ノーザンイリノイ大学への)海外留学・奨学生制度は4週間のホームステイを通じ、英語力と人間力を養成することを狙ったものです。それから、アカデミックスキルラボ(現アカデミックスキル支援センター)は、書く力、プレゼンする力、リーダーシップといったものを養成するセンターとして設置させていただきました。

小野先生の時代に新アリーナの計画ができていて、それを引き継いで完成するというのも私の頃にありましたね。その後、古いアリーナをレストランに、旧レストランを図書館の延長としてラーニングコモンズというスペースに作り替えました。皆さんの協力のもとに、少しは施設環境が良くなったかなと思いますけどね。

健康・スポーツ教育研究センターを設置

渡邊：第4代の竹屋学長は、2019年4月に就任され現在3期目です。

竹屋：この大学の学長になりませんか、崎元先生から最初お電話がありました。小野先生が推薦していただいたのかもしれませんが。私の祖父(男綱氏)が化血研で理事長をやっていた時に、この大学の前身となる衛生検査技師養成所を作った所長をやったり、その後、銀杏短大の学長をやったりしてたんで、この大学のことは知ってました。私の専門が病理学ということで、国立病院(当時)の病理検査室に週1回くらい標本を見に行っていたんですね。そこにいる技師さ

んたちの多くが銀杏短大の出身者で、非常に親しくしてくれて、一緒にテニスをしたりスキーにいったりもしてたんです。熊保大になっても、ここのテニスコートに来て一緒にテニスをやったことがあります。そういったこともあり、こういうふうな大学だというのは頭にあったんですね。自分の専門からいっても親しみがあるし。学長になっても、病理学の講義の一部は自分自身でやらせてもらっています。私としては、非常にやりがいのある学長ポストで、やりがいのある大学だなという気はしていますね。

崎元：竹屋先生にお願いしたのは、先生の人柄や能力に加えて、おじいさんがここの学長、理事長だったということが理由です。祖父と孫で60年の間を置いて学長をやられるのだから、頑張ってやっていただけるだろうと思ってお願いしました。我ながら非常にいい人にお願いしたなと思っています。

竹屋：2年目になったら新型コロナウイルス感染拡大で大変苦労しましたが、少しずつ落ち着いてくると大学として何か新しいことをやらなきゃいけないってことで、人気がある理学療法学専攻の定員を増やしました。ただ増やすだけじゃ意味がないんで、スポーツを取り入れてってことになりまして。そこで、「健康・スポーツ教育研究センター」を作って、スポーツリハビリテーションコースという形で定員を20人増員しています。それに絡めて、いろんなスポーツチーム、あるいは自治体などと連携協定を結んで、学生の教育にも役立てています。



円形の屋根が太陽光パネルで覆われた1号館校舎



小野氏が学長退任時に職員たちから贈られた“卒業証書”

苦心のアリーナ用地取得

崎元: ちょうど私が来た時は、いろんな設備が整っていて、小野先生が始められたアリーナと西里駅からの通学路もきちっと整備されてました。

小野: あそこ土地の買収はですね、苦労しましたよ。農地ですから。でも、あそこはどうしても欲しかった。なぜかという、西里駅からこっちは灯りをつけちゃいけなかったんですよ。稲を眠らせんといかんということで。夜は真っ暗なんです。不審者とかね、金を無心する者が出ましたね。あそこは農家の人も売ってたんですけど、(農地転用に)行政が駄目という。そこで、あっちこっちに頭を下げに行きましたよ。あれが僕の最後の仕事でした。

竹屋: アリーナができたおかげで、健康・スポーツ教育研究センターの活動にいろいろ役立ってますよね。ヴォルターズも益城の体育館が使えない時はここに来て練習していますし、今では連携協定を結んでいます。それに、いろんな競技の選手の皆さんの体力測定とか筋力測定とかもやっています。

熊本地震、 コロナ禍乗り越え

渡邊: 在任中に特に思い出に残っていることは。

小野: 一番印象に残っているのは最初の大学認証評価。準備からしてなかなか分からなくて、ものすごく苦労してね。岡部先生の時で、あれがうまくいったことが大きな出来事でした。ですから、岡部先生が(在任中に)倒れられた時は、大きな支柱をなくしたような思いがしましたね。

もうひとつ記憶にあるのは、聴覚障害

がある学生を入学させるかどうかということで大激論をしたことです。結局、医療系大学なんだからという私のわがままを受け入れていただけてもらったけど、その後は、嶋田かをる先生をはじめ多くの先生方に献身的に面倒見ていただいて、うまくいきました。ノートテイクを引き受ける学生も出てきました。耳が聞こえないなら目が勝負ですから、それまでいい加減だったのもあった教員の授業スライドが全部よくなってきたんです。それは大きいと思う。

あとは、恥ずかしいんですけど、僕の学長室はですね、人が入れんくらい本とかぐちゃぐちゃになっていて、今の学長室みたいにきれいじゃなかった。あんまり散らかしたもんだからね、僕が「卒業。したら事務の皆が喜んで、卒業証書をくれたんですよ。事務職員全員の印鑑を押してね。僕の宝です。」

崎元: (理事長時代の) 2020年3月、コロナが日本で感染し始めた時期に、竹屋学長とも相談して(4週間の)短期留学生

を送り出したんですが、アメリカの感染状況が悪くなって2週間で向こうのセンターが閉鎖することになって、早急に帰さなきゃいけないということになったんです。すぐ帰っていったって20人が乗れるような飛行機の便がない。分秒を争う電話作戦で探してもらって、ようやく1週間後ぐらいに見つかった、全員が帰ることができました。

竹屋: もうちょっと遅れると、国外から帰った人は国内便にもJRにも乗れない、そんな状況になるはずだったんです。ギリギリでしたね。

崎元: ギリギリ。1日か2日違いで帰ってこれました。

竹屋: それも帰る間際に向こうに行ってる学生が発熱して、最後までハラハラでした。

小野: 地震は崎元先生の時ですか。

崎元: 2年目の2016年4月。前震の14日夜、ホテルで先生方の歓迎会をしていました。会が終わって2次会に行こうとしたところにグラツときた。後で聞いたら、



旧アリーナを改装したレストラン



熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)と
包括連携協定を結び、協定書を手にする
竹屋学長(左)と光永KSC会長
|| 2022年9月

歓迎会会場のシャンデリアが落ちたそうで、部屋にいたらけが人が出るところでした。その後、大学は5月の連休明けまで休みとなり、避難所や全国からボランティアで来る人たちのベースになり、本学の学生たちもよく頑張ってくれました。

渡邊：竹屋先生はコロナ禍に翻弄されました。

竹屋：ちょうど2年目の時がもろに緊急事態宣言。新学期を連休明けまで遅らせましたね。それまで自宅待機ですよ。その後もオンラインで授業をやんなきゃいけないってんで、Active Academyを何とか使って、後期から新しいシステム(manaba)を試行することにして。あの時は実習にも行けないし、どうやって授業を組むか、どういうふうカリキュラムを変えていくかすごく苦労して、事務の皆さんにもいろいろやっていただいた。もう大変なことになったと思いました。

真面目…目標見据えた 学生たち

渡邊：先生方には本学の学生がどのように映っていますか。

小野：僕の印象では、真面目ですよ。非常に真面目な感じがしてますね。

竹屋：今も変わらない。

小野：変わらないですね。今も病院に行く卒業生が僕のことを覚えていて、あいさつしてくれるんですよ。それはうれしいことです。学生時代は皆アルバイトしてるでしょ。学長当時、例えばホテルのあるパーティーの時に、僕にだけ一生懸命ワイン注ぎにきてくれてね。役得がありましたよ。ミスユニバースの全国大会に出た人もいました。いろんな特徴がある人がいましたね。

竹屋：この学生は出席率も高く、みんな真面目に授業に出てきます。ただ、学

科で雰囲気が違う。医学検査学科はちょっとおとなしい感じがして、逆にリハビリテーション学科はみんな元気がいい。授業に行っても医学検査はシーンとして待ってるんですけど、リハは授業直前までみんなあちこち動いたりしていて、「今から始めるよ」と言ってやっと始められるっていうかね。看護学科はその間ぐらいですかね。ただ、看護は講義が終わった後質問に来る学生が多いですね。

崎元：学生たちはメディカルスタッフになるんだという目標を持って入ってきてますよね。それが大きいと思うんです。だから真面目にやる気があるということになるんだと思うんです。一般的な大学だと何になるかわからないという中でウロウロしてる人が多いんだけど、この場合、目標があるからきちとしてるな、という印象がありますよね。それと、障害者のためのボランティアとか、四綱領にある仁愛に満ちた人が多い、ということも言えるんじゃないかな。

「選ばれる学生」 輩出し続けて

渡邊：竹屋先生は今後、どのようなかじ取りを考えておられるのでしょうか。

竹屋：崎元先生が将来ビジョンをつくられてますが、「10年後も20年後も選ばれる大学」ですね。この保健医療系分野でリーディング大学を目指すということ。やっぱり優秀な医療人、いわゆる指導的立場になれるような検査技師、あるいは看護師、あるいはリハビリのセラピスト、そういった人を育てていけばいいなと思うんです。

しかし、いかんせん少子化の波がきて受験者数もだんだんだんだん減ってきているから、そこをどううまくやって入学者

を確保していくかが間近に迫った課題と思っています。それには大学の魅力を上げていくということじゃないかなと思うんですね。学生本位の教育やっていくという意味では、先生方のレベルを上げることが大事です。だいたい5年目になりましたから、どの先生がどんな考えを持ってるのか見えてきています。一生懸命学生に接してる人もいるし、研究を一生懸命やっている人もいるし、いろんなタイプの人がいます。やっぱり学長としては先生方を知ること、どういう先生がいて、どういう考えを持ってて、そういう人にはどういう環境がふさわしいか、ということも考えていかないといけない。

渡邊：最後に、元学長のお二人から竹屋学長にエールをいただけますか。

崎元：今まで「選ばれる大学」と言って来ましたが、もう少し突き詰めると、「選ばれる学生」を輩出し続けること。それが大学の評価として戻ってくるのは10年、20年かかるかもしれないけど、そういう学生を輩出してほしい。そこからじんわりと「いい大学」だということが伝わる。そうなるためには、個々の先生が頑張ってくれればいいんだけど、人間力とか社会人を養うアカデミックスキル支援センターや健康・スポーツ教育研究センターも充実発展させて、そういうことに役立つことになれば良いですね。

それと、小野先生の時代から病院を持たないという悩みをずっと抱えている大学なので、さらに病院との連携を強化できればいいなと思っています。

小野：崎元先生がおっしゃったけれども、病院ですね、僕の時は大きな病院が大学を作る時代が続いたんですね。それで僕たち一番困ったのは実習先なんです。

今、国が一番やってるのが、年寄りを病院まで運ばないで在宅介護施設で面倒見ていくこと。大学のコースとしてはなじまないけれども、介護専門養成施設とまではいきませんが、何かそういう先鞭をつけてもいいんじゃないかな。

それから、教員はいろいろ特徴がないといかん。アカデミアで研究し始めたら日本一だけじゃだめです。世界のジャーナルに出せるような人。今、何人かおられるけど。そういう人はそういう人で出してあげて、教育熱心な人は医療系教育学の仕事をしてと。それから、この大学出身の教授をつくるといったふうに、人材育成の面でも頑張してほしいですね。

News & Topics

杏祭

秋晴れの下 笑顔はじける

第47回杏祭が10月20(金)、21日(土)の2日間、アリーナをメイン会場に開かれました。今年のスローガンは「杏(あんず)るより楽しむがやすし」。本祭にあたる21日のステージは、恒例の最強チーム決定戦で幕を開け、すずひろがりず、令和ロマンのお笑いライブで最高潮に。歌謡コンテストでは竹屋元裕学長と飯伏義弘教授の「西里ブラザーズ」がおそろいの派手な衣装で登場し、会場を沸かせました。隣接するバザー会場には19の模擬店が出店。2号館では文化展も開催され、会場は終日にぎわいを見せていました。夜になると、900発の花火が打ち上げられ、祭りのフィナーレを飾りました。



会場を沸かせた竹屋学長(右)と飯伏教授の「西里ブラザーズ」



秋晴れの下、大にぎわいを見せた模擬店会場



杏祭のフィナーレを飾った打ち上げ花火

若さ躍動 興奮のステージ

本祭に先立ち20日に開かれた前祭では、華やかなステージが繰り広げられました。

初めは吹奏楽部による演奏です。ジブリメドレーとすばらしい照明の演出で毎日の勉強に疲れた心が癒やされました。

圧巻だったのはダンスサークルmimic(ミミック)によるダンスパフォーマンス。

ダンスの次は軽音部の演奏。ライブスタジオさながらの規制線なしで観覧できて、フェスと同じくらい盛り上がっていました。



約1時間半にわたる圧巻のパフォーマンスを見せたmimicのメンバーたち



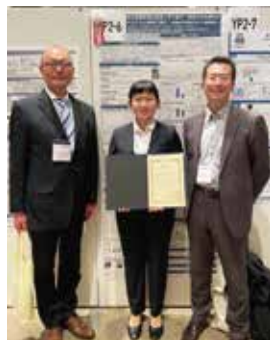
写真上は、ジブリメドレーを演奏する吹奏楽部メンバー

日本人工臓器学会大会ポスターセッション 荒尾さん(大学院臨床検査領域2年)2年連続優秀賞

第61回日本人工臓器学会大会が11月9日(木)～11日(土)、ホテルイースト21東京(東京都)で開催され、萌芽研究ポスターセッションで大学院臨床検査領域2年の荒尾ほほみさんが、昨年に続き優秀賞を受賞しました。

荒尾さんは昨年大会で、体外式膜型人工肺(ECMO)内に生じる血栓の原因に迫る研究で高い評価を得ました。今回の「体外循環時間の延長に伴う術中・術後の出血傾向のメカニズム解明に挑む一模擬体外循環を用いた基礎検討」と題した研究は、産学共同研究として昨年5月よりスタートしたものです。心臓手術等の体外循環に伴って生じる血小板数減少と血小板膜表面からある特定の糖蛋白質が切断され、その結果として粘着能が低下することが、術中・術後の出血傾向の原因である可能性を見出しました。

荒尾さんは「2年連続受賞という目標も達成でき、支えてくださった先生方、企業の方々に少しですが、恩返しができる嬉しく思います」と喜びを語っていました。



2年連続で優秀賞に輝いた荒尾さん(中央)。左は共同研究者の古垣達也氏(筑波大学附属病院)、右は上妻行則准教授

県近代文化功労者に小野名誉顧問 皮膚学の権威 文筆家としても活躍

熊本県教育委員会は10月25日(水)、令和5年度の県近代文化功労者を発表し、本学の名誉顧問で元学長の小野友道氏(83)＝写真＝が選ばれました。

小野氏は山口県徳山市(現周南市)出身。熊本大学医学部卒。皮膚科学・皮膚腫瘍学の第一人者として多くの後進を育ててきました。文筆家としても『人の魂は皮膚にあるのか』『木下全太郎と熊本―「五足の靴」天草を訪ねる』など多くの著書があります。

平成19年には本学第2代学長に就任。8年にわたる在任中、認定看護師教育課程や大学院、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻などの新設、3号館と50周年記念館建設、太陽光発電システム導入、海外大学との協定締結など、本学の基盤を築き上げました。

県近代文化功労者の顕彰は1948年度にスタート。県出身者が在任歴があり、学術や芸術の分野で熊本の近代文化の発展に貢献した人物を対象としています。本年度は、小野氏のほか、「肥後三郎弓」の制作者で弓道文化の普及発展に貢献した松永重昌さん(93)、熊本県伝統工芸館の基本コンセプトなどを構築した秋岡芳夫さん(故人)も選ばれました。顕彰式は11月27日(月)、県庁で行われました。



オープンキャンパスに過去最多の参加者

オープンキャンパスが7月16日(日)、8月20日(日)、9月3日(日)の3回開催され、合計で過去最多となる2150人の参加者がありました。学科専攻毎に工夫を凝らした模擬実習のほか、「共通科目」紹介、在学生との交流、各種相談コーナーが開設され、学内は活気に満ちていました。



白衣姿で顕微鏡をのぞき、気分は臨床検査技師

水上村スポーツ合宿アスリート支援

水上村との包括連携協定に基づく「スポーツ合宿アスリート支援」を7月期(24～25日)と8月期(11～12日)の2期に分けて実施し、計11校、219人の高校生ランナーを対象にフォーム分析や栄養講習などを行いました。3年目となる今回は、過去に行ってきた体組成分析やフィジカルチェックなどの測定項目の中から、特に要望が強かったアスリートリハビリとフォームチェックに絞って実施しました。



学生たちのサポートを受け、体幹トレーニングをする高校生ランナー

小中学生が「からだのふしぎ探検」

小中学生にヒトの体の仕組みや医療について学び、体験してもらおう「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」が8月6日(日)に開催され、アリーナとキャンパステラスの2会場に設けられた計20のブースに、約180人の親子連れが参加しました。



白衣を着て興味深げに顕微鏡をのぞく小学生

初めての出産 優しく助言

助産別科が7月2日(日)、出産前の初産婦とパートナーを対象とした「もうすぐパパママ教室」を3104S講義室で開催しました。同科の「健康教育論」の一環で、2組の夫婦が参加し、赤ちゃんモデルを使った抱っこや着替えの体験、お産の流れやリラクセス法、出産時のパートナーの役割についての説明を受けました。



座談会で参加者に新生児の抱き方を指導する助産別科の学生

ベネッセ情報誌で本学の取り組み紹介

ベネッセコーポレーション・ベネッセ iキャリア・進研アドが発行する高等教育情報誌「Between」12月号(310号)に、本学が取り組む学修成果の可視化や学生参画型の授業づくりなどが紹介されました。

12月号のテーマは「学修者本位の大学のつくり方」。本学や上智大学、茨城大学など7大学の取り組みが、各種アンケート結果と共に紹介されています。見開き2ページにわたる本学のコーナーでは、竹屋元裕学長へのインタビューや、アカデミックスキル支援センターの学生指導員の活動内容などが盛り込まれています。

熊本ヴォルターズと包括連携協定

バスケットボールのBリーグ2部(B2)熊本ヴォルターズと本学が7月11日(火)、スポーツ医科学によるチーム支援の充実やスポーツを支える人材育成などを目的とした包括連携協定を結びました。本学とプロスポーツチームとは初めての締結です。



協定書に署名後、記念撮影する熊本ヴォルターズと本学の関係者

長年の献血協力 国から感謝状

令和5年度献血運動推進全国大会厚生労働大臣表彰状と感謝状の伝達式が9月12日(火)、熊本県赤十字血液センターであり、本学を代表して竹屋元裕学長が感謝状を受け取りました。これまで50年に渡って献血を受け入れてきた実績が認められたことによる感謝状でした。



国からの感謝状を受け取る竹屋学長(右)

高齢者の「食べる力」をチェック

松原慶吾准教授(リハビリテーション学科言語聴覚学専攻)のグループが9月29日(金)、アリーナで西区の上近見地区に住む71歳から92歳までの高齢者への「食べる」ことの健康チェックを実施しました。本学の教員をはじめスタッフ25人が、摂食嚥下(食べること・飲み込むこと)に関係する筋肉の量と力、歯、心理面の状態など14項目をチェックしました。



「食べる」ことに関わる筋肉の量を測るスタッフたち

操作性高め 5年ぶりリニューアル

本学のホームページ(HP)がリニューアルされ、10月6日(金)から新しいデザインに切り替わりました。各学科・専攻の学生5人が笑顔で歩む姿を「一歩、一歩、熊本。」とうたい上げたトップページ=写真=は、学生たちの夢の実現を後押ししているかのよう。HPのリニューアルは、平成30年以来5年ぶりとなります。

全体として操作性が高いデザインとなっています。



リニューアルしたホームページのトップページ

高校生と協力 高齢者の体力測定

阿蘇市在住の高齢者を対象とした体力測定会が11月15日(水)、同市一の宮町の阿蘇中央高校であり、本学リハビリテーション学科の学生41人と同校生徒55人が協力し、聞き取りや測定を行いました。65歳以上の男女25人が参加。学生と生徒が協力し、歩行速度、摂食嚥下機能、骨密度など計29項目にわたる測定を手際よく進めていました。



測定にあたるオレンジ色ジャンパーの本学学生と黒ジャージ姿の高校生



実習体験レポート

1年次から4年次まで、実践レベルの技術や知識を習得するために、段階をふんだ実習があります。学科専攻によって内容は異なり、実際に現場での実習を体験することで、自分の将来を具体的にイメージすることができます。今回は6人の学生の実習体験を紹介します。実習を通して学んだことや感じたこと、実習中の気分転換の方法から後輩の皆さんへのアドバイスまで幅広く答えていただきました。

①実習を通して学んだこと ②実習中の気分転換 ③後輩へのアドバイス

感じたさりげない声掛けの大切さ

医学検査学科 3年
岩永 裕太 さん

- ①臨地実習では、学内実習で触れることのなかった機器の操作や適切な患者接遇を学ぶことができました。機器の操作においては、より信頼度の高い結果を報告するための精度管理を行ったり機器が出した数値から読み取れる病気の原因を正常値にも注目して考えたりすること、患者接遇においては、様々な不安を抱えて来院される患者さんに対し、検査中のさりげない声掛けや詳しい検査説明を行うことで積極的に検査に協力してもらうことが大切だと感じました。
- ②実習ノートまとめは平日に終わらせ、休日は1日中音楽鑑賞をしたり、映画鑑賞したりして気分転換をしていました。
- ③各科目に対して苦手意識を持ちすぎないこと、分からないことは素直に質問することが大切です。苦手科目がある人はたくさんいると思います。僕は、大学の座学や実習では苦手だと思っていた科目も臨地実習では比較的楽しく学ぶことができました。大学では学べないようなことをたくさん学び、臨地実習を楽しんでください。

ドラマやペットでリフレッシュ

看護学科 3年
山本 万都香 さん

- ① 今回の実習を通して、患者様のこれまでの生活、疾患や治療の経過を捉え、疾患によって障害が日常生活にどう影響しているのか、家族背景などのバックグラウンドもアセスメントする必要性を学びました。看護師は医療従事者の中でも、患者様にとって最も近くで支援を行う存在であり、生活の面と医療的な面でアプローチを行わなければなりません。そのため、本人の生きがいや思いに加え、家族の意思も尊重することが重要であると学ぶこともできました。また、看護職者としての幅広い知識や技術だけでなく、患者様一人ひとりの価値観を捉え、理解しようとする姿勢が、患者様本人や家族への看護として重要なのだと考えることができました。
- ② 記録やレポートを早めに仕上げて、ドラマを見たりペットと遊んだりしながら、リフレッシュしていました。
- ③ 領域別に、事前学習や受け持ち患者様の疾患、治療、看護について勉強し、実習に臨むことが大切です。緊張や不安を抱えることはあると思いますが、講義で学んだことを自分なりに分かりやすくまとめメモ帳等を作成しておく、実習への自信に繋がります。学んだことは必ず自分の強みになります。辛いときは1人で溜め込まず、先生やグループメンバーに相談し頼りましょう。応援しています！

しっかり食べて寝て、実習を楽しんで

リハビリテーション学科
理学療法専攻 4年
江藤 新一郎 さん

- ① 臨床実習では、患者様の検査や動作分析、治療プログラム立案から介入までを任せていただきます。患者様の動作や状態は日々変化していくので、退院後の環境をイメージしてその時々に適したリハビリをする必要があります。他の職種の方やカルテから患者様の情報を得るためにも、積極的にチームでコミュニケーションを取ることが重要だと学びました。
- ② 週末は気分転換としてSpotifyやNetflixでお気に入りの曲や動画を鑑賞していました。
- ③ 県外に行くこともあり大変と思いますが、実習で学んだ知識や技術は次の実習や国家試験対策の際にも必ず役に立ちます。実習中に疑問に思ったことは積極的に質問して自分の学びにつなげてください。あとはしっかり食べて寝て、実習を楽しんでください。応援しています。

未来を見据えた視点を

リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻 4年
早野 真菜 さん

- ① 私が実習を通して学んだことは、患者様の「今」を捉えるだけでなく「未来」を見据えた視点を持つことの大切さです。最初は現時点での状態や、過去の生活歴などを知ることで精一杯でしたが、実習指導者の先生方に、患者様の生活を24時間、365日考えることが必要であると助言をいただきました。その後は、多くの情報収集と多角的な視点を持って、患者様の生活に寄り添えるよう行動し、より良いリハビリテーションに繋げることができたのではないかと考えます。
- ② 実習中は友達とビデオ通話をしたり、散歩したり、美味しいご飯を食べたりすることで気分転換をしていました。
- ③ 1人で慣れない環境に飛び込むことは大変だと思います。しかし、机上では学ぶことのできない貴重な経験になります。実習生という立場ではありますが、社会人の一員として責任ある行動を心がけましょう。もちろん一生懸命頑張ることは大切ですが、体が資本ですので、自分の心と身体を第一に考えてください。応援しています！

実習地を散策しリフレッシュ

リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 4年
田川 未呼 さん

- ① 臨床実習では患者様と信頼関係を築くことの大切さを学びました。病院には、障害受容が難しい患者様や訓練を拒む患者様など様々な方が入院されており、初めはどのように声をかけたらよいのか分かりませんでした。しかし、指導者の先生に対話の大切さを教えていただき、自分なりに工夫し、会話することで患者様が前向きに訓練に取り組んでくださるようになりました。実習最終日には「訓練が楽しかった」とお言葉をいただきました。信頼関係を築くことは容易なことではありませんが、本当に大切なことだと実感しました。
- ② 私は知らない土地での実習だったので、患者様や指導者の方に勧めていただいた観光地などを散策することでリフレッシュしていました。患者様との会話でもとても役に立ちました。
- ③ 初めは緊張しますが、患者様と積極的にコミュニケーションをとったり指導者の先生に積極的に質問したりすることで少しずつ慣れてくると思います。また、評価法や訓練法など事前に復習しておくことで不安を減らすことができると思います。現場の方はとても温かく指導して下さります。貴重な経験をさせていただけると思うので悔いが残らないように頑張ってください！応援しています。

失敗も成長につながる

助産別科
藤木 菜乃華 さん

- ① 分娩介助実習では分娩開始時間の判断や、分娩進行など刻々と変化する状況で、産婦や胎児の状態を自身でアセスメントし何を実施すべきか根拠をもって支援することの難しさと重要性を学びました。お産を経験するほど、一つとして同じお産はなく、個性のあるケアを提供することの大切さを学びました。また、助産師さんの質の高い観察力や判断力を身近で学ばせて頂くことで、助産師の責任の重さや、自身の目指す助産師像が明確になりました。
- ② 実習中は、実習の仲間と話したり、睡眠をしっかりとったりして、休みの日にはお菓子作りをすることで気分転換していました。
- ③ 助産別科は1年と限られた時間で学ぶことが多く、大変ですが、同じ志を持った仲間と共に学べ、とても充実しています。失敗から学ぶことも多く、日々の振り返りが自分の成長に繋がっていると思います。まずは、国家試験の勉強大変だと思いますが頑張ってください。困ったときは周囲を頼り、体調管理に気を付けて下さいね。

研究ノート

言語の多義性が脳内の言語処理にどのように影響を与えるのか

なんで本を読んで泣くことがあるんだろう。私はなんでさっきあんな言い間違いをしたんだろうか…。幼少の頃から、人間が行う言語活動のメカニズムに興味がありました。言語聴覚士の資格を取得後、「認知言語学」「認知神経心理学」「神経心理学」を学び、脳疾患患者さんへのリハビリテーション業務を通じて、脳内の言語処理について考える機会がさらに増えました。

修士論文では、単語の語義の広がり（これを「言語の多義性」といいます）が、脳内の言語処理にどのように影響を与えるのか、という点について検討しました。その結果、動詞と名詞で異なる語義の拡張が起こっている可能性を見出し、その語義拡張の違いが脳内での言語処理の難易度に影響していると解釈できました。大塚先生と宮本先生と進めている「言語の多義性」に着目した研究は、言語聴覚療法の発展のために重要なテーマであると認識しており、今後も人間の言語活動の本質に迫れるような研究ができればと考えています。

大学院保健科学研究科
リハビリテーション領域2年
立場 文音 さん

活躍する先輩たちのリアルな声が聞ける！

KHSU

OB・OG

就職活動ルポ



①在学中意識してやっていたこと ②就職活動中のことや、後輩へのアドバイス



2023年3月卒業（医学検査学科）

田上 友富美さん

臨床検査技師
日本赤十字社 熊本健康管理センター

国家試験 友人たちと協力

- ①国家試験の勉強をする際、1人では中々進まなかった為、友人と一緒に時間を決めて行っていました。1人で頑張ることも大切ですが、どうしても気持ちが落ち込んだり甘やかしてしまう時もあると思うので、友人と協力し合うことでお互いにいい結果に繋げることができたと思います。
- ②就職先は病院に限らず健診センターや検査センターなどいくつかあると思います。私は予防医学に興味があり、健診センターに就職しました。後悔がないよう、まずは自分が就職先で何をしたいのかを明確にし、就職・実習支援課の方やSGの先生などに相談しつつ、目的にあったところに就職できるといいと思います。



2023年3月卒業（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻）

山崎 友哉さん

作業療法士
御幸病院

興味あることに積極参加

- ①私が在学中意識してやっていたことは、少しでも興味のあることに積極的に参加してみることです。私は主にボランティアとサークル活動に参加していました。在学中にしかできないことや、学外の様々な方と関わる中でしか得られない経験を積むことで自分のスキルアップに繋がると考えていました。
- ②就職活動では情報収集が必要になってきます。就職先でどのように働きたいのかをイメージしながら調べていくと志望動機も書きやすいと思います。また、在学中の経験や頑張ってきたことも面接で問われるので、在学中にしかできない経験や興味のあることに積極的に参加して就職活動も大学生活も充実したものにしてください。



2023年3月卒業（看護学科）

西村 優吾さん

看護師
熊本大学病院

実習期間の学びを特に意識

- ①私は在学中、実習期間の勉強を特に意識して取り組みました。実習では座学での学びを実際に見て経験することができ、印象にも残って学びがとても多かったです。実習での学びは、その後の国試や就職後の臨床でも役立っているため、頑張ってもよかったと感じています。
- ②私は、早くから準備を始め、就職・実習支援課の方や友達と面接練習を繰り返し行い、アドバイスを頂くことで自信をもって就職試験に臨むことができました。就職・実習支援課の方々は、とても手厚いサポートをしてくださるので、困ったときはぜひ相談してみてください。



2023年3月卒業（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻）

平野 杏菜さん

言語聴覚士
くまもと江津湖療育医療センター

留学にチャレンジ

- ①在学中に意識して取り組んだことは、チャレンジすることです。私は、韓国とアメリカの留学にチャレンジしました。韓国留学では、小児のSTのリハビリを見学し、小児分野に興味を持ちました。チャレンジをすることで、自分の視野が広がったと感じています。
- ②就職活動で大切だと感じたことは、様々な人と面接練習をすることです。私は、多くの先生方、友達に面接練習をお願いしました。様々な意見や質問を頂いたことで、自分の考えを深めることができ、本番で自分の力を発揮できたように思います。



2023年3月卒業（リハビリテーション学科理学療法学専攻）

田口 亮太さん

理学療法士
IMSグループ東京大和病院

磨きかけたコミュニケーション能力

- ①色々なアルバイトで様々な経験を積み、コミュニケーション能力を磨きました。また、稼いだお金で家族や友人とたくさんの思い出を作りました。色々な経験を通して、自分は何が好きなのか、将来的にどのようになりたいのかプランニングをするということに時間を使いました。
- ②関東方面ということだけ考えて、いくつかの病院に見学に行きました。そこで感じた雰囲気や就職先を決めました。実際に見た方が感じるものがあると思うのでおすすめです。大学生は自由に使える時間が多いと思うので、家族、友人との時間を大切に過ごしてください。



2023年3月卒業（助産別科）

倉田 のどかさん

助産師
北里大学病院

就職・実習支援課を訪ねてみて

- ①様々なことに挑戦することです。ボランティアサークルの部長を務めたり、学業では保健師課程に進み、助産別科にも進学しました。そのことで、リーダシップに必要な要素や医療機関から地域に向けた多職種連携を学ぶことができ、視野を広げることができました。
- ②就職活動を始める中で、何から始めれば良いか迷うことと思います。そんな時は是非、就職・実習支援課を訪ねてみてください。進路相談だけではなく、面接や小論文、エントリーシートまで、丁寧に指導して下さい、自信を持って就職活動に臨むことができます。

大邱保健大学交換研修生が来学

「きれいなキャンパス 交流楽しみ」
韓国・大邱保健大から交換研修生

韓国・大邱保健大学からの交換研修生8人(いずれも2年次生)が7月3日(月)、本学入りし、ウェルカムパーティーでスタッフと交流を深めました。あいにくの大雨で全学休講となったため、学生スタッフ不在の寂しい歓迎となりましたが、研修生たちは11日(火)までの研修プログラムに期待感をにじませていました。

パーティーは南部雅美・国際交流委員長の司会で開幕。竹屋元裕学長が「研修期間を通じ、本学の学生やスタッフと友情をはぐくんでほしい」とスピーチしました。引き続き、研修生一人ひとりに前に出て簡単な自己紹介。日本語で語り掛ける研修生もいて、会場を和ませていました。

来日するのは3度目というジュ・チョンヘさん(看護学科)は「キャンパスはきれいで大きいし、先生方は情熱的」と印象を語った後、「韓国でも問題化している高齢化に、日本がどのように対応しているのか知りたい」と、抱負を口にしました。



交換研修生たちウェルカムパーティーで
本学スタッフと歓談する

コンケン大学交換研修生が来学

4年ぶり交換研修生ら5人来学
タイ・コンケン大 歓迎パーティーで交歓

タイ・コンケン大学の交換研修生4人と教員1人が来学し、6月2日(金)、1204・1205会議室でウェルカムパーティが開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で、交換研修生が本学を来訪するのは4年ぶりです。

植原真二副学長の挨拶と乾杯の音頭に合わせ、会食がスタート。コンケン大学の教員と学生たちの自己紹介があり、「はじめまして」や「よろしくお願いします」と日本語で挨拶する姿も見られました。続いて本学から交換研修生をサポートするサポート学生たちの紹介もあり、学生たちは初対面の交換研修生と積極的にコミュニケーションを取っていました。

期間中、研修生は講義参加、施設見学などを行いました。13日(火)のさよならパーティーでプレゼンテーションを行い、14日(水)に帰国しました。



コンケン大学からの交換研修生
(前列両脇から各2人と記念撮影をする本学関係者)

クラブ
サークル
紹介【卓球部】 部員：28名
活動場所：アリーナ

卓球部は毎週木曜日に活動しています。現在、新型コロナウイルスが収束し1年生が沢山入部してくれたことで賑やかに活動しています。

活動内容としてはラリーを中心に行っており、サーブ力やコントロール力、戦術等様々な力を身につけることを目標に掲げ日々楽しく活動しています。

卓球部の魅力は、希望する人のみ大会に出場することができる為、これまで卓球をしてきた人も初めての人も楽しめるような所と、他学科の人や先輩、後輩と関わる事ができ、大学の情報交換、試験、就職等も相談することができる事です。

卓球部はこれからも卓球の楽しさを知ってもらうことを第一に部員同士でコミュニケーションをとることで何でも相談できる関係を築けるよう日々活動に励みたいです。



アリーナで練習する部員

【GENERATION】 部員：81名
活動場所：ボランティア活動を行う場所

ボランティア活動の募集があった際に、様々な活動を行っています。

4月にショッピングモールでの子宮頸がんの啓発活動や5月のリレー・フォー・ライフというがん患者の支援チャリティ活動でのルミネリエの設置やがん患者の方への温かい言葉かけなどを行っています。また5月にフードパルのフェスティバルや祭りでの健康チェックで骨密度測定や血圧測定を行っています。そして、子宮頸がん検診についての横断幕をもって、スタジアム内を回っています。他にも、杏祭でのアロマストーンや石膏でのキャラクターの置物の販売やオープンキャンパスでの細胞診の先生のお手伝いや小中学生を対象とした科学の祭典のイベントのお手伝い、西里駅の清掃活動を行っています。



ショッピングモールで買い物客にパンフ
などを手渡し、がん検診を呼びかける部員

Library



図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library.html>

○グループ学習活動が復活!

グループ学習室は、コロナ禍では遠隔授業やWeb面接等に利用されていましたが、現在は、対面利用が再開され、Web利用と合わせて、予約が増加しています。国家試験のグループ学習やチーム医療のグループ活動、アカデミックススキル支援センターの活動など、学生さんが大いに利用しています。

○オーディオブック購入!

ラダーシリーズ(グリム名作選~シェイクスピア4大悲劇)など、オーディオブックとその底本である図書(冊子体)を合わせて購入し、英語の授業に活用しています。電車通学などの隙間時間を利用した「聞く読書」として、その他の分野も購入予定です。



○『私の部屋でランチを』『サイエンスカフェ』開催!

2023年度は6月から12月までで10回開催しました。演者は、共通教育センターの山鹿先生(3回)、看護学科の岡先生、認定看護課程の研修生、助産別科生、海外派遣留学生、リハビリテーション学科の本田先生、特命教授の蛭田先生、医学検査学科の登尾先生です。会場では、人数制限も無くし、通常開催としました。(一部Zoom生配信あり)

詳細は、図書館ホームページをご覧ください。
(<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/>)

図書館蔵書の中から

— 図書館蔵書の中から 雑誌のご紹介 —

『臨床スポーツ医学』 文光堂

2000年から冊子体を購読していましたが、2017年から電子ジャーナルに切り替えました。その後、スポーツリハビリテーションコースが開設され、その学生さんのリクエストで2023年から冊子体購読を電子ジャーナルに加え再開。「最新号を直接手に取って読みたい」との強い要望でした。このように図書館では、学生さんの様々な学修形態に合わせた蔵書構築を目指しています。

【配架場所：最新刊は雑誌架、バックナンバー製本書架、電子ジャーナル】





医学検査学科
上 伸一 義
学科長

臨床検査技師の養成ルートが違っても修得する知識や技能の水準の統一が図られるよう、令和4年4月に臨床検査技師等に関する法律施行令第18条に規定する受験資格が改正されました。これまでと特に大きく異なる点は臨地実習に関することで、1単位を臨地実習前の技能修得到達度評価に充当すること、また、臨地実習先において「必ず実施させる行為」、「必ず見学させる行為」、「実施させることが望ましい行為」、「見学させることが望ましい行為」が明記されました。本医学検査学科は科目承認校であることから、令和6年度よりこの改正された内容に則った臨地実習を行わなければなりません。

そこで本学科では、臨地実習前の技能修得到達度評価方法に関して、2019年度より検討を重ねて参りました。その4年の検討内容を踏まえて改善点を明らかにし、必修1単位となる令和6年度からの技能修得到達度評価試験実施にめどをつけることができました。また、臨地実習先で必ず実施・見学させる行為または実施・見学させることが望ましい行為に関しては、これまで学生を受け入れて頂いた全ての施設でその全てを対応頂けるわけではありません。そこで、各施設に対して、それらの行為の実施可否について現在アンケート調査を行っております。その調査結果を基に、臨地実習において必要とされるそれら全ての行為を学生が経験できるように、各施設のご協力を頂きながら調整を図る予定です。各施設の臨床検査技師の先生方には、今後とも何卒ご協力頂きますようお願い致します。

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力をもつ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会について洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術をもつ人材を育てる

将来ビジョン

保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

Vision 1

社会の変化に対応し、リーダーシップを
発揮できる医療技術者の養成

ビジョン 1-1

教育改革の推進と
学生ファーストの修学支援

ビジョン 1-2

独創的な研究の推進と
大学院の充実

Vision 2

地域に根ざし、地域と共に歩み、
社会の幸福実現に貢献

ビジョン 2-1

教育・研究
組織の充実

ビジョン 2-2

魅力的な教育・
研究環境の充実

Vision 3

10年後も20年後も選ばれ続ける
ためのブランド力の強化

ビジョン 3-1

学生・教職員の国際力の
向上と海外の大学等
との連携強化

ビジョン 3-2

教員と職員が協働する
効率的・合理的な
職場環境の構築

「熊保大夢基金」 お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊保大夢基金」への寄付をお願いしております。令和5年度前期におきましても19件53万円の御寄付を頂きました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名(令和5年度前期分、掲載御許可を頂いた方のみ、五十音順)

(医)愛育会福田病院様 赤池紀生様 (福)恩賜財団済生会みすみ病院様 熊本バスケットボール(株)様
倉谷学様 KMバイオロジクス(株)様 重富直純様 (医)寿量会熊本機能病院様 杉光定則様 高野眞様
松村加奈子様 山口茂幸様 (医)緑泉会米盛病院様 (独)労働者健康安全機構熊本労災病院様

頂いた御寄付は、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実へ活用させていただきます。引き続き基金の趣旨に御賛同頂きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細につきましては同封の「寄付金 募集要項」または公式WEBサイト<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp>を御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。



編集
後記

能登半島地震により犠牲となられた方々に心より
お悔やみ申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申
上げます。この号の学長座談会にもありましたとおり、崎
元学長の時に熊本にも大きな地震が発生しました。復興にむ
け多くの皆様にご助力いただいたことに改めて感謝します。



熊本保健科学大学では、公益財団法人
日本高等教育評価機構において令和2年
度大学機関別認証評価を受審し、令和3
年3月16日付で同機構が定める大学
評価基準に適合していることが認定され
ました。

本学では今回の認証評価の結果を踏ま
え、今後も更なる向上に努めて参ります。

お詫び:ぎんきょう48号の特集1「国内最初の衛生検査師養成校」本文中で、校舎が京町から清水町に移転したのは、昭和48年頃と読み取れるような文章構成となっておりますが、正しくは昭和43年頃になります。